

IP Multicast Topic

2006/07/13 JANOG18

吉村 浩

hyoshimu@cisco.com

(hiroshi1201@mbh.nifty.com)

Disclaimer and Agenda

本日は既存のMulticast 技術をベースに話をさせて頂きます

- **PIM Sparse Mode と PIM SSMの違い**
- **IP Multicast冗長化の実情**
- **IGMPv3/MLDv2の簡単理解**

本日触れない内容

- **Multicast over PPPoE/L2TPv2**
- **Multicast AAA**

PIMの概要

Sparse Mode概要



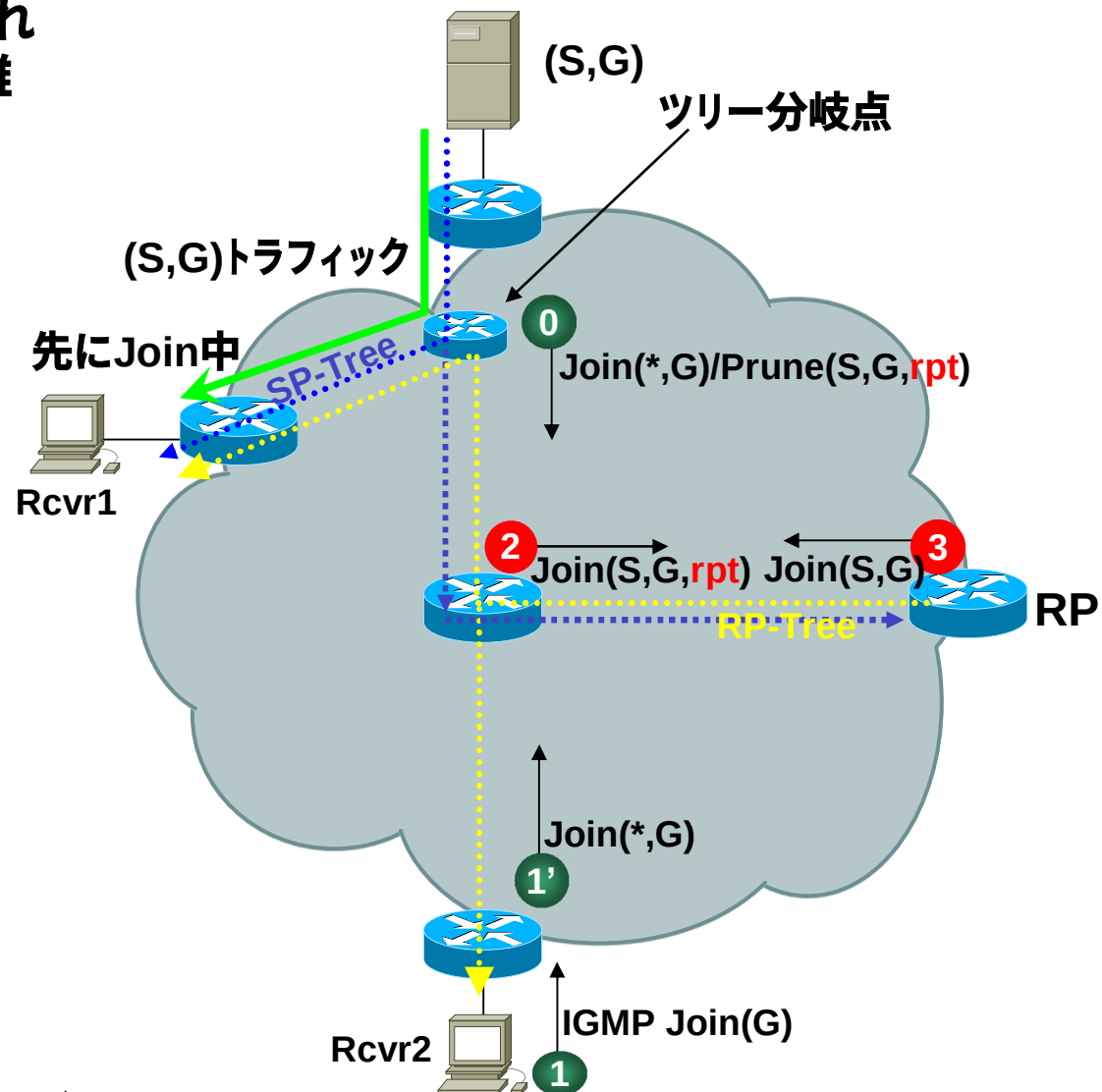
- 省略 (話しが長くなるので)

PIM Sparse Modeの鬼門

RP折り返し (AKA RP-on-a-stick, RP Turnaround)

RPがSourceと離れた場所に置かれている場合のSparse Modeの複雑な動作

Source Treeが無ければ、Sourceへの(S,G)Joinは最初は必ずRPで折り返す

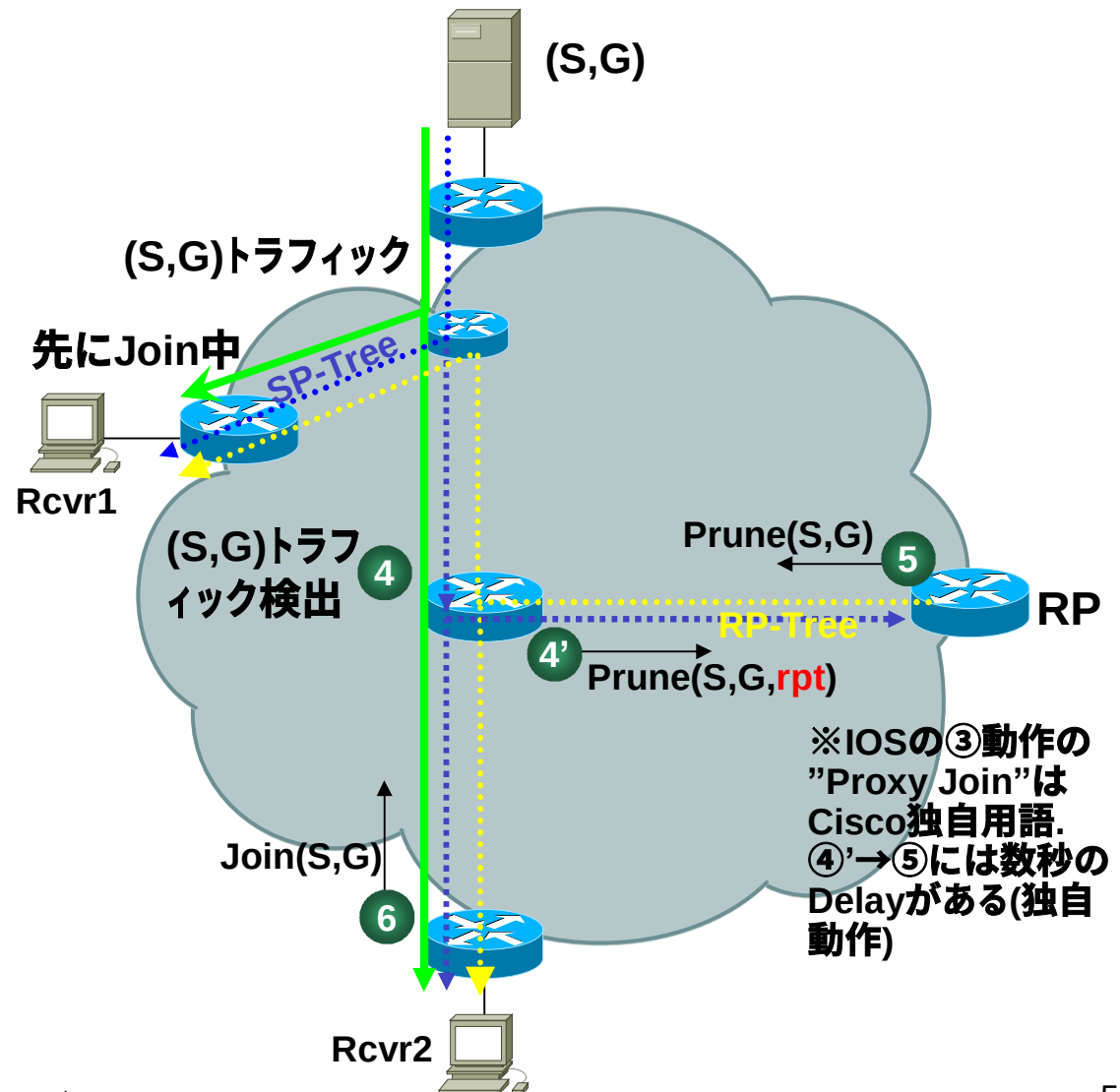


PIM Sparse Modeの鬼門

RP折り返し (続き)

RPの折り返し動作は
Prune(S,G,**rpt**)受信で止まる (右
図 ④'→⑤)

draft-ietf-pim-sm-v2-new-xx
ベースの実装(に近い ※注)

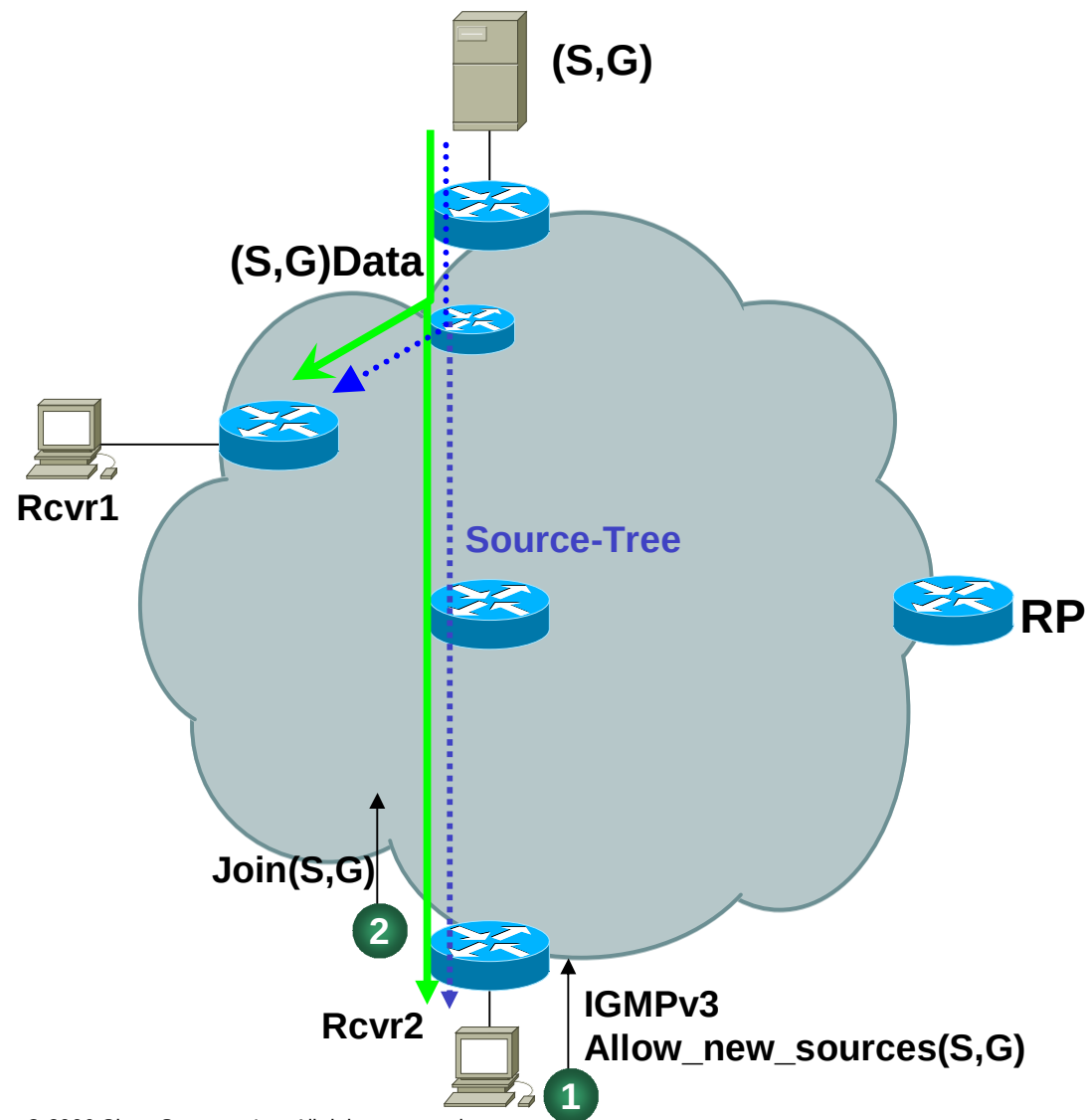


PIM Sparse Modeの鬼門

RP折り返し(続き)

- Sparse Modeがややこしいなぁと思ったら...
PIM SSMを使いましょう!

PIM SSMの場合



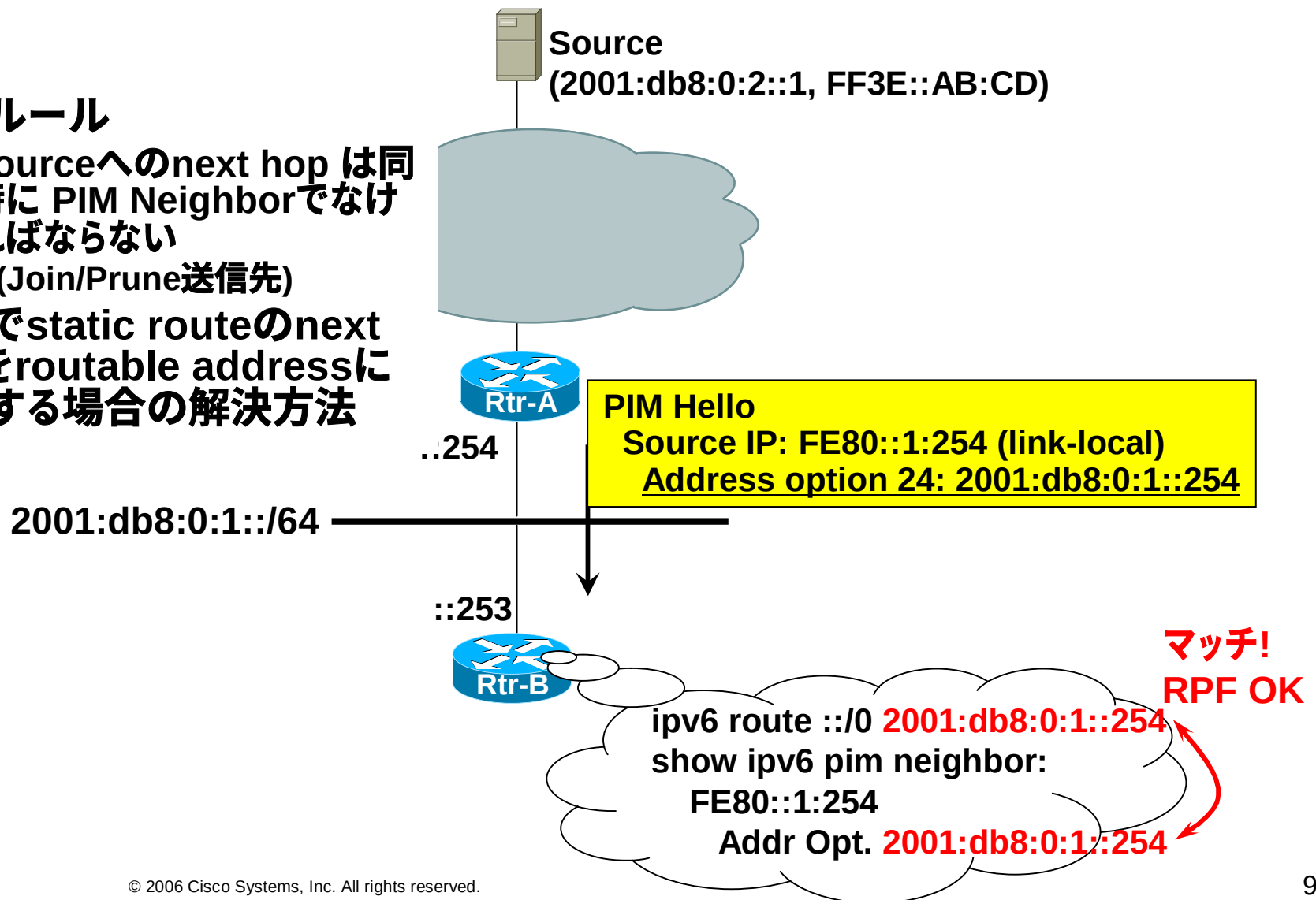
小ネタ

IPv6でのPIM Hello OptionによるRPF解決

PIM Hello Address Option のRPFへの応用例

IPv6 PIMの場合

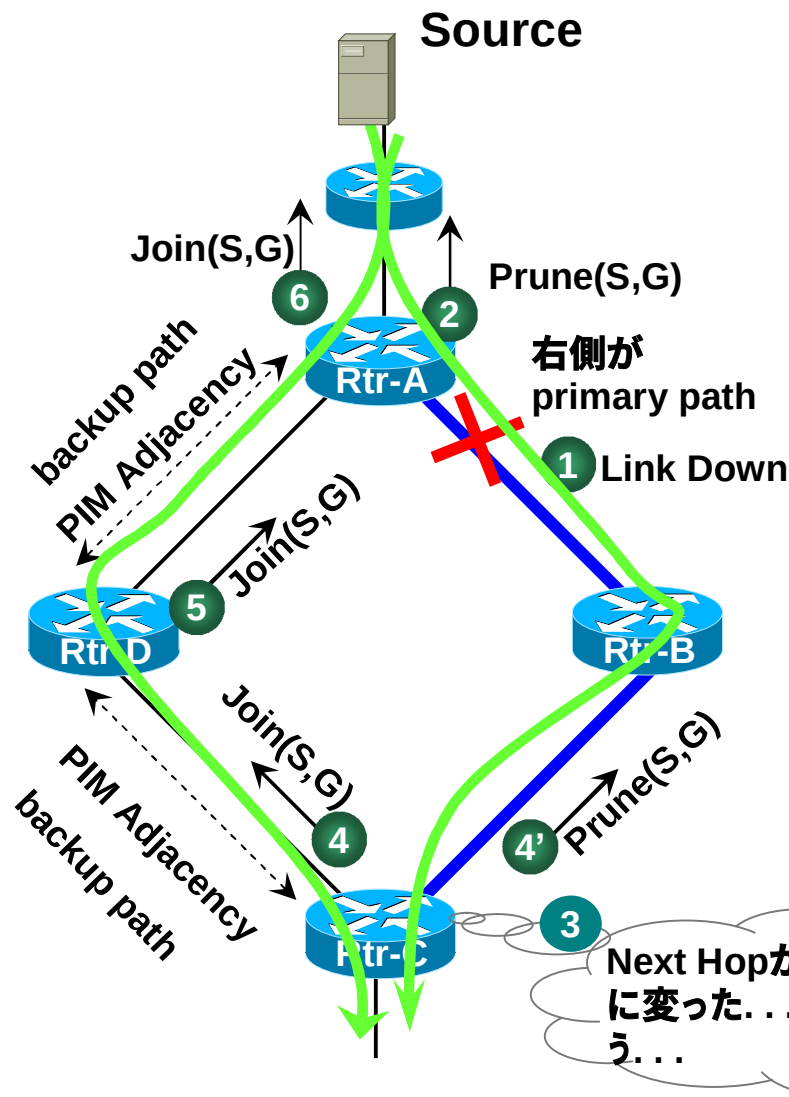
- RPFルール
 - Sourceへのnext hopは同時に PIM Neighborでなければならない
(Join/Prune送信先)
- IPv6でstatic routeのnext hopをroutable addressに指定する場合の解決方法



IP Multicastの冗長化

IP Multicastの冗長化

Convergence: Primary → Backup



- Backup Path への切り替え時間は Unicast Routing の収束 + RPF検出時間 + Join(S,G) の伝播時間
- RPF検出時間はIOSの場合”Triggered RPF”機能
- Backup Path へのJoinは上流にスムーズに中継されていく
 - 一番近いSource Treeまで
例えばRtr-A の配下にReceiver があると左図の⑥のJoin(S,G) は不要
 - 最悪First Hop Routerまで

IP Multicastの冗長化

Triggered RPF

- Cisco独自機能
- コマンド “ip multicast rpf backoff”
initial backoff は500msec
- 昔はRPFチェックは5秒周期
→ 復旧時間がばらつく

IP Multicastの冗長化

Unicastとの差

- **結局、Unicastと比較すると、Multicast の復旧は PIM Joinの片道伝播時間が余計にかかるため遅延が目立つ**
 - + 現IOSの場合Triggered RPF時間

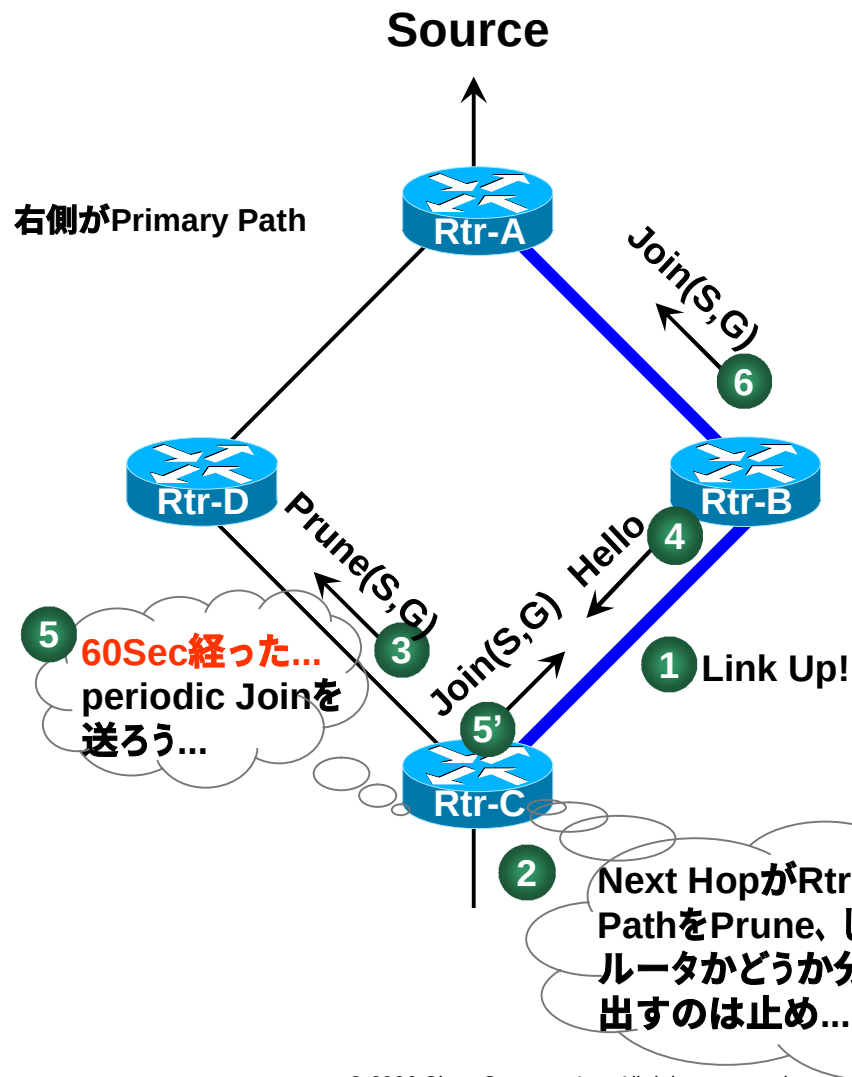
IP Multicastの冗長化 (痛いところ)

Backup → Primary Path復旧

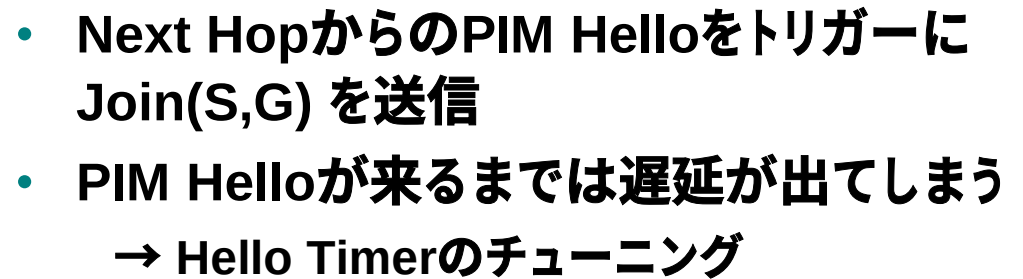
- Backup → Primary Path復旧時の課題:
 - Case1: Unicastの収束よりもPrimary Path 上で PIM Neighbor 検出が遅れる (**PIM Hello問題**)
 - Case2: 上流のRouter が下流のRouter よりもUnicastの収束が遅れる (**Micro-Loop問題**)

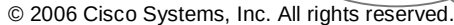
IP Multicastのパス復旧時の問題

PIM Hello問題



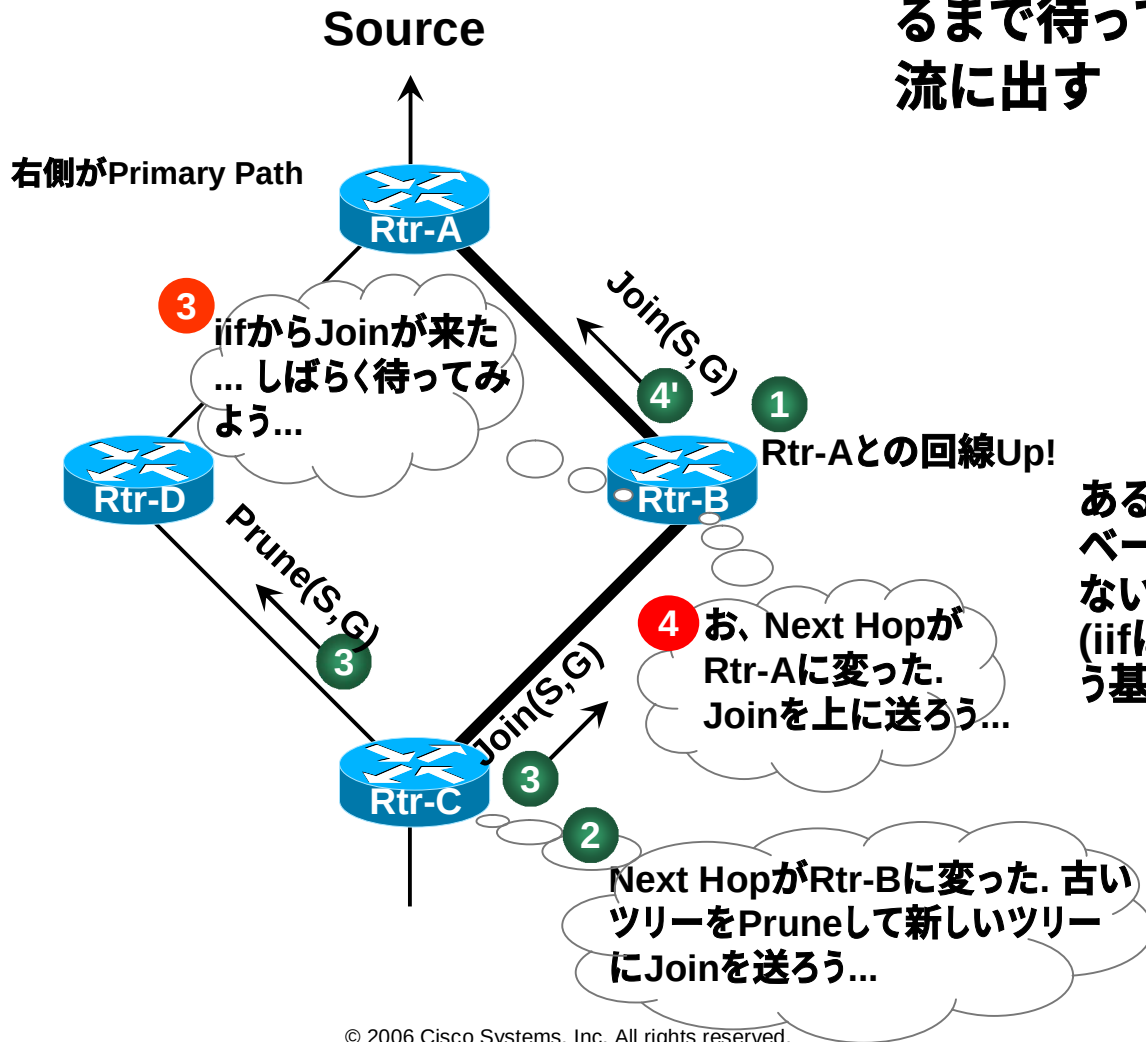
- RPF PathがPrimary Pathに変わったがNext HopがPIM Neighborとして未だ見えていない:
→ Join(S,G) を復旧したPrimary Pathに直ちに送信できない.
最悪60秒の復旧遅延.





- RFC2362では、入力インタフェースからJoinを受けても、それをOILに入れないから OIL=空
→ Joinが出せない
- 最悪60秒の復旧遅延

- iifからJoinを受信すると、Next Hopが変
るまで待って、iifをOILに入れてJoinを上
流に出す



あるいは、draft-ietf-pim-sm-v2-new-xx
ベースの実装だとiifをOILに入れても構わ
ないので元々この問題は起きない
(iifはforwardingに使ってはならない、とい
う基本ルールでガードされている)

IGMPv3 & MLDv2

IGMPv3/MLDv2の最大の難点

- RFCの内容が複雑かつ難解
(私にとっては...)
- 既の実装されてしまっているため、簡易版作るのも大変そう...

IGMPv3/MLDv2の難点

直感的に理解し難いメッセージ

	略号	Mode
• TYPE1:IS_INCLUDE	;IS_IN ({S},G)	1
• TYPE2:IS_EXCLUDE	;IS_EX({S},G)	2
• TYPE3:CHANGE_TO_INCLUDE	;TO_IN({S},G)	3
• TYPE4:CHANGE_TO_EXCLUDE	;TO_EX ({S},G)	4
• TYPE5:ALLOW_NEW_SOURCES	;ALLOW({S},G)	5
• TYPE6:BLOCK_OLD_SOURCES	;BLOCK({S},G)	6

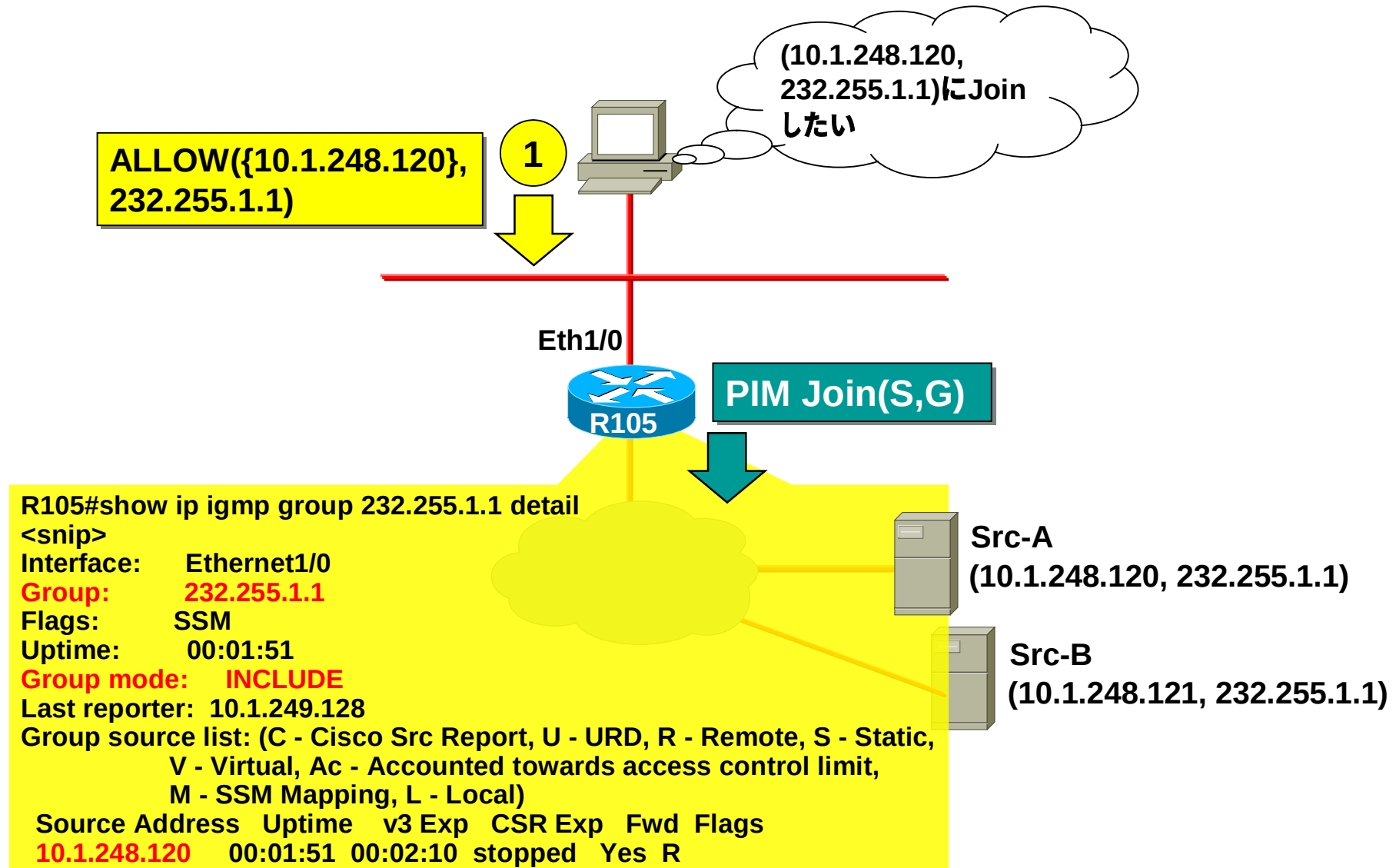
{S}はSourceのリスト

IGMPv3/MLDv2とSSM

- SSMでは以下のメッセージだけで十分なはず...
 - ALLOW ({S},G) : 受信要求
 - IS_IN ({S}, G) : 上記interestの状態 (queryへの返事)
 - BLOCK({S},G) : 停止要求
- いつの間にかTO_IN({S},G)も許容すべきと
メッセージを増やすメリットあり?
Appendix参照

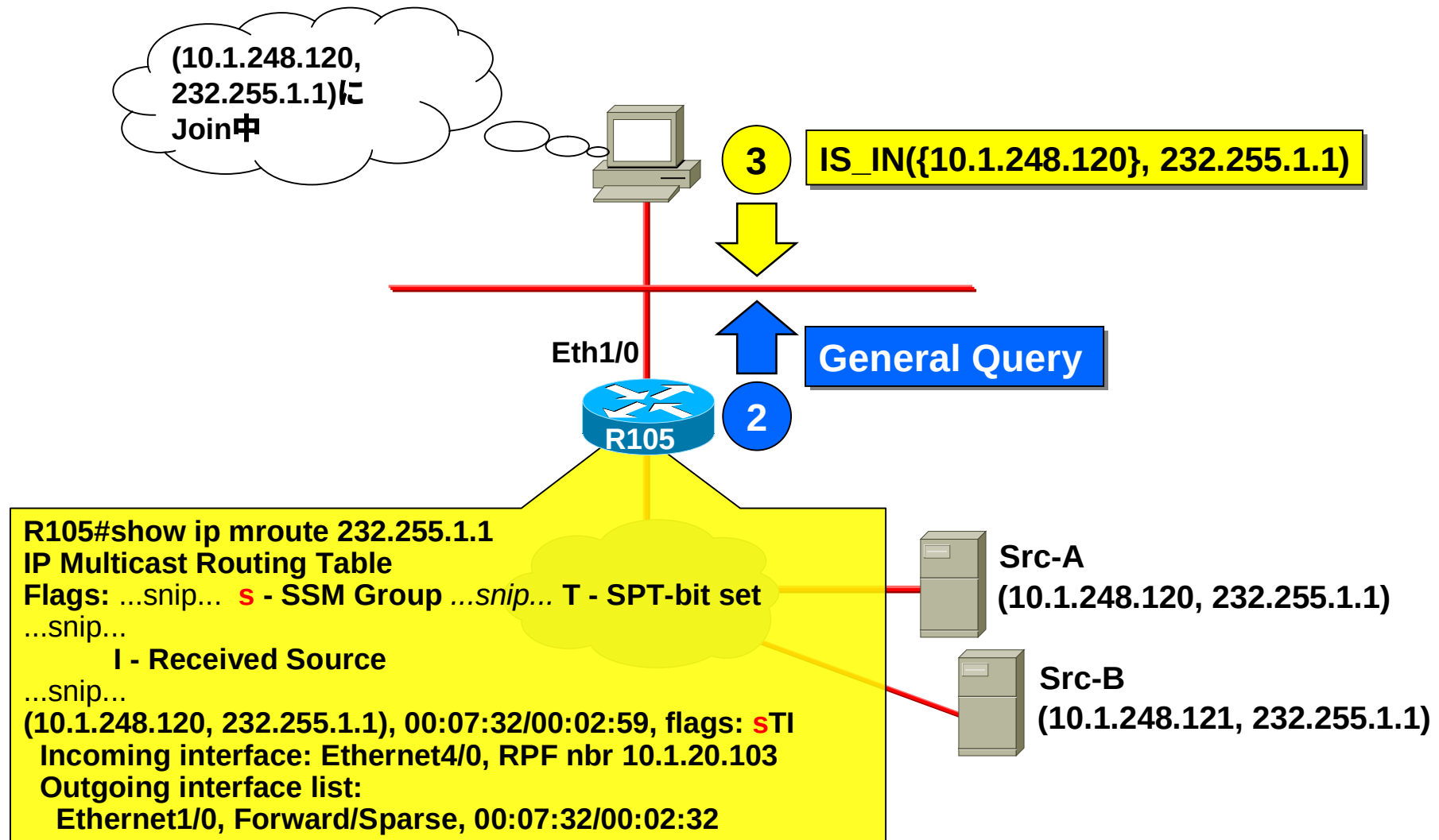
IGMPv3

SSM Join時



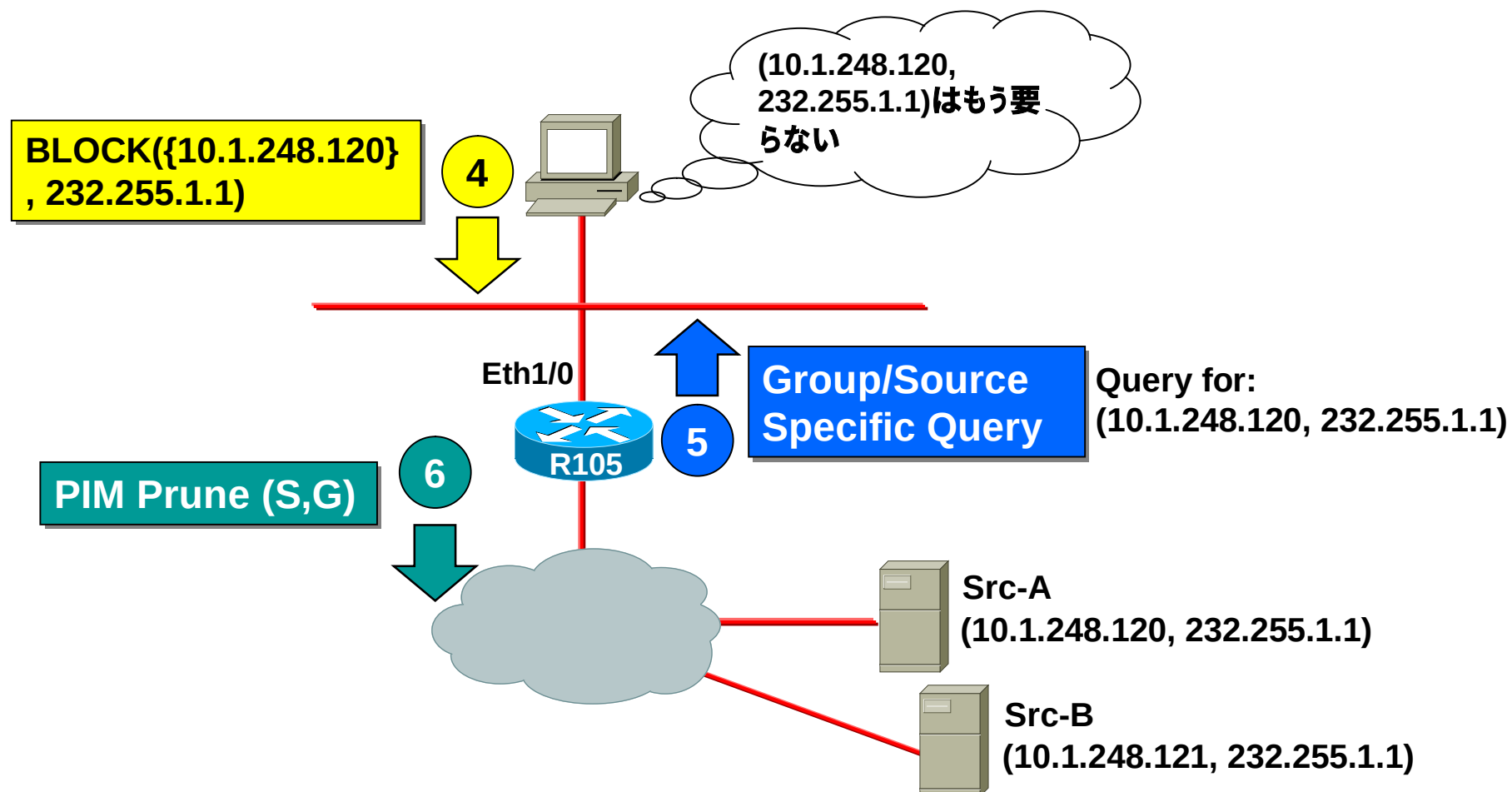
IGMPv3

SSM Join中



IGMPv3

SSM Leave時



IGMPv3/MLDv2

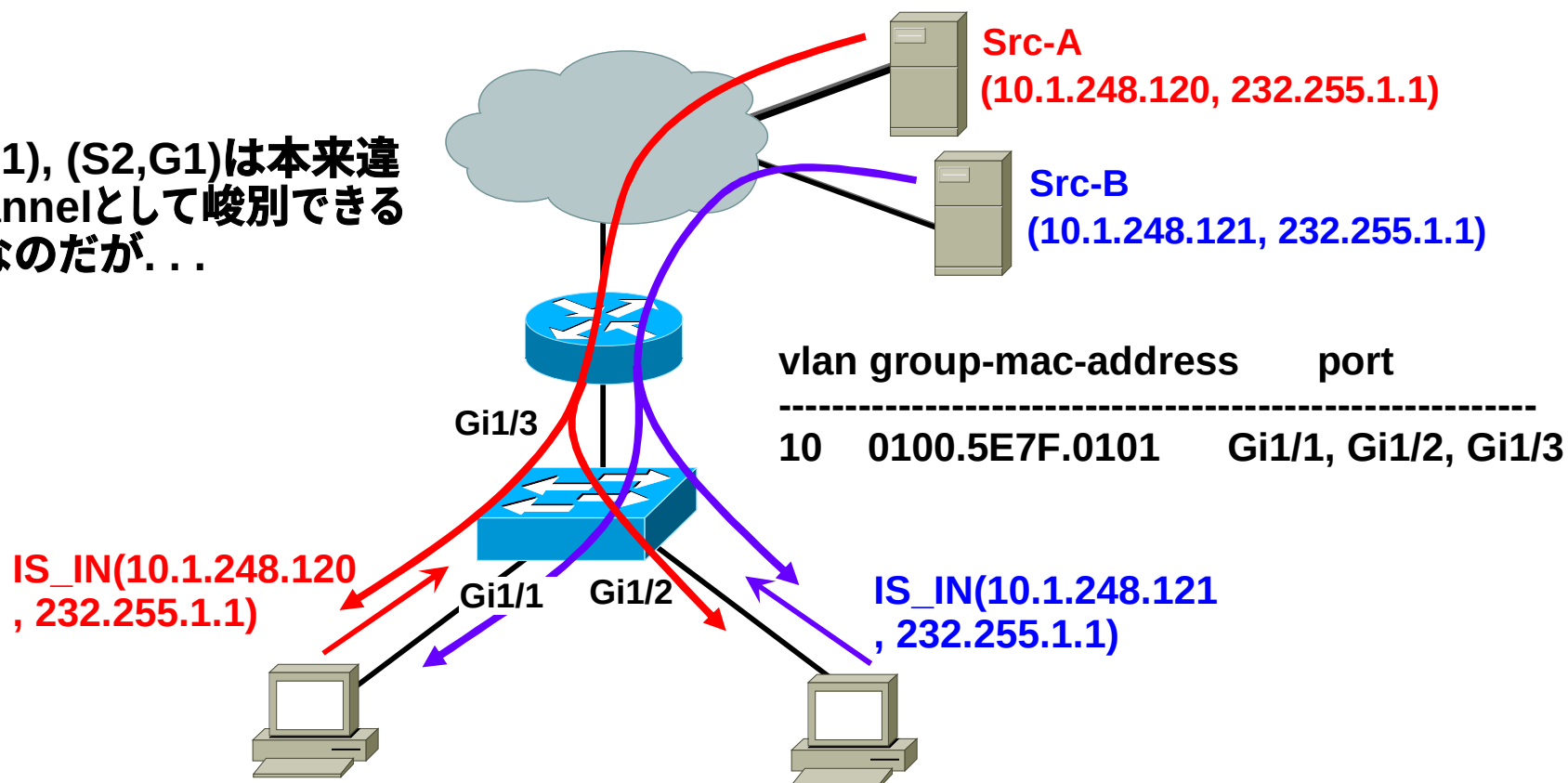
“EXCLUDE”って何だ？

- Sparse Modeの世界で、特定のSourceをEXCLUDE(排除)し、それ以外の全てのSource(Any Source)への受信を要求するもの
- 特定のSourceのみ受信したくない、という要求をレシーバ間で完全合意することは可能か???
 - 使い道無し
 - RPでフィルタすればいい

IGMPv3/MLDv2の痛いところ

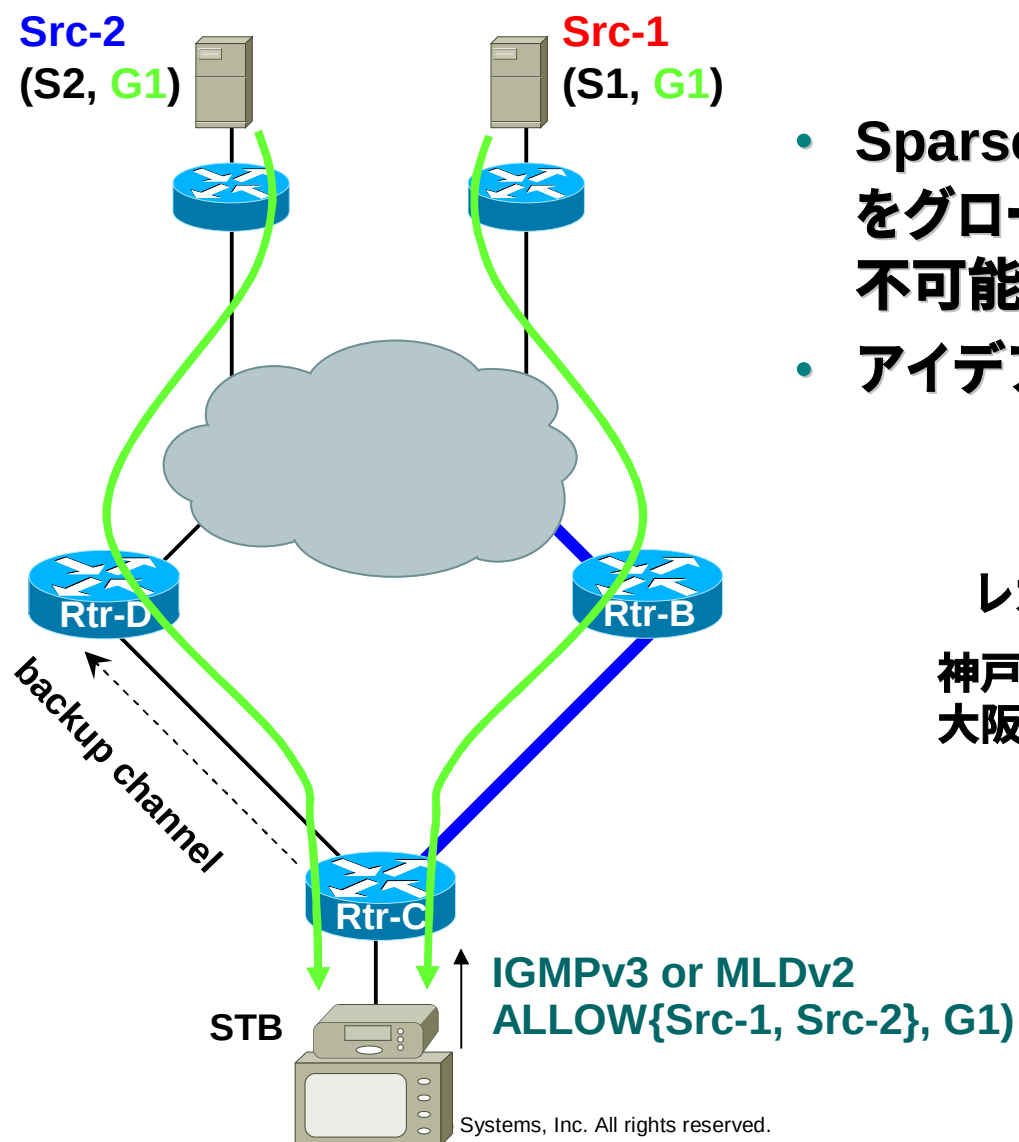
- LAN SwitchのsnoopingによるフィルタリングがMACアドレススペース

(S1,G1), (S2,G1)は本来違うChannelとして峻別できるはずなのだが...



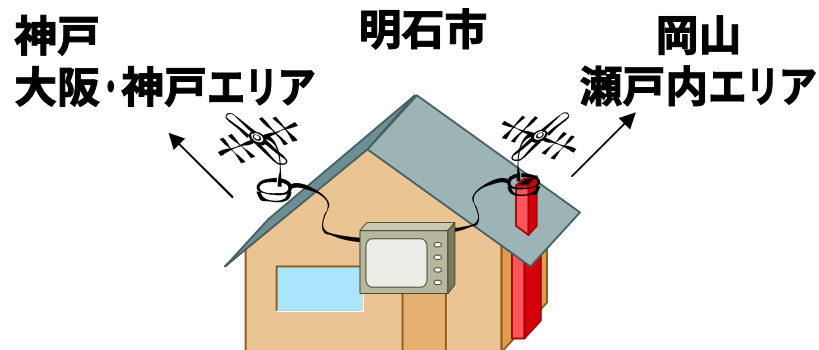
SSMの大きなメリット

Hot-Hot Redundancyが可能



- Sparse Modeの場合Groupの一意性をグローバルに保証しなければならない不可能
- アイデア自体は古い

レガシーなHot-Hot Redundancy(例)



まとめ (提言)

- **SSMに移行を本格的に検討しましょう**
 - ネットワークとしてはReady
 - Sparse Modeよりも楽
- **Multicastの冗長化**
 - Unicastとの差分はPIM Joinの伝播遅延(直近ツリーまで)許すか...
 - 許せない場合P2MP RSVP-TE + Fast Rerouteの出番か...
運用実績は？ P2MP RSVP-TEはスケールし得るか??? が課題
- **IGMPv3/MLDv2 (+ SSMとの絡み) をどうするか**
 - SSMではメッセージ3種類(ALLOW, IS_IN, BLOCK)で十分
 - CHANGE_TO_INCLUDEはやめましょう
ALLOWとIS_INCLUDEをALLOWだけにまとめてしまうことも出来るかも...
 - 同一Group間のチャンネル(e.g. (S1,G), (S2,G))識別をどう考えるか
残念ながらL2 SwitchはReadyではない
Hot-Hot Redundancyに応用すべきではないか

Appendix. RFC3376引用

RFC3376 Internet Group Management Protocol, Version 3

5.1. Action on Change of Interface State

...snip...

a per-interface record), then the **"non-existent" state is considered to have a filter mode of INCLUDE and an empty source list.**

Old State	New State	State-Change Record Sent
-----	-----	-----
INCLUDE (A)	INCLUDE (B)	ALLOW (B-A), BLOCK (A-B)

OLD State	New State	State-Change Record Sent
-----	-----	-----
最初のチャンネルJoin		
INCLUDE (NONE)	INCLUDE (Src-A)	ALLOW (Src-A)
チャンネル変更		
INCLUDE (Src-A)	INCLUDE (Src-B)	ALLOW (Src-B), BLOCK (Src-A)
チャンネル追加		
INCLUDE (Src-A)	INCLUDE (Src-A,Src-B)	ALLOW (Src-B)